

様 式 C - 1 9、F - 1 9 - 1、Z - 1 9 （共通）

科学研究費助成事業

研究成果報告書



令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：13904

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2022

課題番号：16K21100

研究課題名（和文）アメリカンコミックスにおけるビート文化表象-主流文化と対抗文化の中間的文化

研究課題名（英文）The Representation of Beat Culture in American Comics: The Culture Between
Mainstream Culture and Counterculture

研究代表者

社河内 友里（Shakouchi, Yuri）

豊橋技術科学大学・総合教育院・准教授

研究者番号：30616347

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は、1950～1960年代のアメリカにおけるビート・ジェネレーションの文化の、その後の時代における受容形態を、1950～2010年代までのアメリカンコミックスにおける表象から明らかにする研究の一部である。本研究では特に1990～2010年代の受容形態を明らかにすることを目的とした。研究の結果、1990年代以降のコミックスにおけるビート文化リバイバルには1990年代以降の新しいヒップスター文化が深く関係していることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1950～60年代のビートの文学や文化を起因とする対抗文化は、アメリカのみならず全世界の文化に今なお大きな影響を与え続けている。ビート文化がその後の時代の人々にどのように受容され、その形態がどのように変遷してきたのかをアメリカン・コミックスにおける表象から明らかにすることの意義は、ビート文化やコミックスの問題にとどまるものではない。ビート文化にはじまった現代の対抗文化が、アメリカの消費主義社会の中で、主流文化にどのように搾取されてきたのか、また、搾取されながらもどのように生き残ってきたのか、という、アメリカ文化の大きな流れについての議論に寄与する点において、本研究は重要である。

研究成果の概要（英文）：This research is a part of my project that explores how the culture of the Beat Generation from the 1950s and the 1960s has been received in latter-day milieu by examining the representations of the Beat culture in American comics from the 1950s to the 2010s. In this research, I focused on the representations in American comics from the 1990s to the 2010s. Thus, a deep connection between the Beat culture revival in the comics from the 1990s and the new hipster culture that emerged in the 1990s is revealed.

研究分野：アメリカ文学文化

キーワード：ビート・ジェネレーション アメリカン・コミックス ビート文学 対抗文化 主流文化 消費文化
反順応主義 ビートニク

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究は、1950～1960年代のアメリカにおいて、反順応主義的な文学作品によって注目を集め、現代アメリカの対抗文化の起源となった作家集団、ビート・ジェネレーションの文化（ビート文化）が、その後の世代にどのように、また、なぜ受容されてきたのかを、1950～2010年代までのアメリカンコミックスにおける表象から明らかにする研究の一部である。本研究では特に1990～2010年代のコミックスに焦点を当てた。

申請者は研究開始までに、すでに、1950～1980年代までのアメリカンコミックスにおけるビート文化の受容形態について分析を行ってきた。また、1990年代以降のアメリカンコミックスにおいて、ビート文化のリバイバルが起こっていることを突き止めた。しかし、このリバイバルの詳細や、リバイバルが起こった原因についてはまだ明らかにできていなかった。グローバル化が急進した1990年代以降のビート文化表象は非常に多様であり、特に、主流文化と対抗文化の中間文化的な描写については、その様相について、より詳細な分析が必要であると考えた。

2. 研究の目的

以上のような背景を踏まえ、本研究では、まず、未考察である1990～2010年代の各年代のコミックスについてビート文化受容形態を明らかにすることを目的とした。また、この結果を、これまでに考察してきた1950～1980年代のコミックスにおけるビート文化受容形態と繋ぎ合わせて考察し、1950～2010年代のアメリカンコミックスにおけるビート文化受容形態とその理由について一連の研究を完成させることを目的とした。

3. 研究の方法

これまでに収集した1990～2010年代のアメリカンコミックスにおいて、主流文化と対抗文化の間の中立的な立場と、ビート文化の反順応主義的要素がどのような関係で描かれているかを、メインストリーム・コミックス、オルタナティブコミックスのそれぞれについて分析した。また、さらに収集が必要である資料を、アメリカのコミックス専門図書館や、アメリカの古書店、インターネット等を用いて可能な限り収集し、分析に加えていった。

4. 研究成果

(1)

DCコミックスのシリーズ、*Justice League of America*の1990年代におけるビートニク表象には、1990年代のアメリカにおける科学技術の発展や、その背後にある禅文化のリバイバルなどの社会的背景が反映されていることを明らかにした。この研究成果を、“Beatnik Heroes in American Comics in the 1990s: Buddhism, Science and Technology in Counterculture”と題し、国際会議 The IAFOR International Conference on Arts & Humanities にて発表した。

(2)

1990年代のオルタナティブコミックスの代表作の一つである Daniel Clowes の *Caricature* (1998)において、1990年代のヒップスター文化の中には、主流文化と対抗文化が混ざった、新しいビート文化受容が見られることを明らかにした。この研究成果を、“A Fake ‘Wall’ between Retrospective Hipsters and Satire on Retro in Daniel Clowes’s *Caricature*”と題し、国際シンポジウム “Walls” in Anglo-American Literature and Culture (The Nagoya Univ. American Literature/Culture Association and Chukyo Univ. Postcolonial/Tourism Research Group) において発表した。

(3)

アンダーグラウンドコミックスやオルタナティブコミックスの代表的な作家の一人である Bill Griffith のシリーズ、*Zippy the Pinhead* (1970-)の1990年代の作品内には、ビート文化への言及が多くみられる。Griffithのビート文化表象において、主流文化対抗文化と対抗文化の中間的文化が見られ、この中間的文化こそが現代のビート文化受容の主要因となっていることを論じた。この研究成果をまとめた論考「*Zippy the Pinhead*における道と異界とビート文化 対抗文化と主流」文化の中間的文化」が、共著『路と異界の英語圏文学』に収録され、出版された。

(4)

主流のアメリカン・コミックスとアンダーグラウンド・コミックスにも様々なグラデーションがあることや、主流文化と対抗文化の中間的文化の形態にも変遷があることを明らかにした。

この研究成果の一部を、『アメリカ文化辞典』の「アメリカン・コミックス」および「アンダーグラウンド・コミックス」の二項目に執筆した。

また、同研究成果の一部を、日本マンガ学会海外マンガ部会において、「アメリカンコミックスと文学・文化研究 ピート・ジェネレーション文化表象を中心に」と題し、口頭発表した。

(5)

アンダーグラウンドコミックス作家、Robert Crumb の *Fritz the Cat* におけるピート文化受容形態を明らかにした。1960 年代に人気を博し、1972 年の映画化の際には日本でも大きな話題となった同コミックは、2016 年に再度日本語訳されるなど、現在に至るまで米国内外で注目されている。アンダーグラウンドコミックスの終焉と現代のオルタナティブコミックスの誕生の間にある作品として、重要な作品であるため、分析を行った。本研究では、本作品におけるピートニクの登場人物の死の表象を考察し、それが、主流消費社会への反順応主義的な記号として作用しているために、現在まで主流消費社会において消費され続けていることを明らかにした。この研究成果を、"Hipness in a Death in Robert Crumb's *Fritz the Cat*" と題し、国際シンポジウム "Anglo-American Literature/Culture and Japan" (The Nagoya University American Literature/Culture Society and Chukyo University Society of British and American Cultural Studies) において発表した。

(6)

アメリカのマーベルコミックスの作品、*X-Men* における 1990 年代～2010 年代のピートニク表象の変遷を、1990 年代以降の現代ヒップスター文化における真正性を追求する傾向に関連させて論じ、"The Revival and Revision of the Beat Subculture in *X-Men* and Consumerism" と題して、国際会議 2021 Conference of the Popular Culture Association /American Culture Association (U.S.) において発表した。

(8)

X-Men のみならず、*Spiderman*、*Deadpool* などの、主に 2000 年代～2010 年代のマーベルコミックスの複数の作品におけるピート文化表象の変遷を分析した。特に、これらの作品に共通して描かれているピートニクのキャラクターと、現代ヒップスター文化および Woke Movement との関係性、また、ピート・ジェネレーションの文学に見られる精神的な超越状態の描写と結び付けて論じ、「ピート文化の超越状態 マーベル・コミックスにおけるピートニク表象の変遷」と題し、日本アメリカ文学会中部支部例会において発表した。

(9)

1990 年代以降のコミックスにおけるピート表象には、ピート文学の大きなテーマとも言える精神的な超越状態が見られることを明らかにした。また、ピート文学そのものに対するジェンダーや人種の視点からの批判も、コミックスに描かれていることをつきとめた。そこで、ピート・ジェネレーションの作家ジャック・ケルアックの『地下街の人々』の現代社会における受容形態から、2010 年代以降のキャンセルカルチャー（特に人種とジェンダーの観点におけるキャンセルカルチャー）とピート文化受容を関連させて論じ、「Mixed Race と真正性 Jack Kerouac の *The Subterraneans* における人種とジェンダー」と題し、日本アメリカ文学会中部支部大会のシンポジウムにおいて発表した。

(10)

2010 年代以降のマーベルコミックスおよび DC コミックスにおけるピートニクの変容を、1990 年代以降に注目を浴びようになった現代ヒップスターの文化や、ジェンダー、コーヒー文化、サブカルチャー資本の観点から論じ、"Coffee, Poetry, and Superpowers for Men: Beatnik-Hipster Superheroes and Gender in Comics" と題して、国際会議 2023 Conference of the Popular Culture Association /American Culture Association (U.S.) において発表した。

本研究では、全体を通して、ピート文化の多様なリバイバルが見られる 1990～2010 年代のコミックスに注目し、そのピート文化受容を、主流文化と対抗文化の中間的な文化に焦点を当てながら考察した。そして、その中間的文化には、現代ヒップスター文化が大きく関わっていることを明らかにした。1990 年代以降におけるピート文化受容が、現代ヒップスター文化の内包する人種、ジェンダーや、反知性主義などの問題に深く関係していることが明らかとなったことは、大きな成果である。また、当初、1990 年代以降のオルタナティブコミックスにおいて、ピート文化リバイバルは批判対象であったと予想したが、批判だけでなく、憧れや自嘲など、より多様な態度が示されていたことが明らかとなったことも、ピート文化受容の変遷、ひいて

は現代におけるカウンター・カルチャーの形態を紐解くための重要な成果である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Yuri Shakouchi
2. 発表標題 "The Revival and Revision of the Beat Subculture in X-Men and Consumerism"
3. 学会等名 2021 Conference of the Popular Culture Association /American Culture Association (U.S.) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 社河内友里
2. 発表標題 「ビート文化の超越状態 マーベル・コミックスにおけるビートニク表象の変遷」
3. 学会等名 日本アメリカ文学会中部支部例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 社河内友里
2. 発表標題 「Mixed Raceと真正性 Jack KerouacのThe Subterraneansにおける人種とジェンダー」
3. 学会等名 日本アメリカ文学会中部支部大会シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yuri Shakouchi
2. 発表標題 Hipness in a Death in Robert Crumb's Fritz the Cat
3. 学会等名 Nagoya University American Literature/Culture Society and Chukyo University Society of British and American Cultural Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1．発表者名 社河内友里
2．発表標題 アメリカンコミックスと文学・文化研究 ビート・ジェネレーション文化表象を中心に
3．学会等名 日本マンガ学会海外マンガ部会
4．発表年 2017年

1．発表者名 Yuri Shakouchi
2．発表標題 Beatnik Heroes in American Comics in the 1990s: Buddhism, Science and Technology in Counterculture
3．学会等名 The IAFOR International Conference on Arts & Humanities (国際学会)
4．発表年 2017年

1．発表者名 Yuri Shakouchi
2．発表標題 A Fake "Wall" between Retrospective Hipsters and Satire on Retro in Daniel Clowes's Caricature
3．学会等名 The Nagoya Univ. American Literature/Culture Association and The Chukyo Univ. Postcolonial/Tourism Research Group (国際学会)
4．発表年 2017年

1．発表者名 Yuri Shakouchi
2．発表標題 Coffee, Poetry, and Superpower for Men: Beatnik-Hipster Superheroes and Gender in Comics
3．学会等名 2023 Conference of the Popular Culture Association /American Culture Association (U.S.) (国際学会)
4．発表年 2023年

〔図書〕 計2件

1．著者名 森有礼、小原文衛、土屋陽子、社河内友里、塚田幸光、C.J.アームストロング、細川美苗、矢次綾、小林英里、杉浦清文	4．発行年 2018年
2．出版社 大阪教育図書株式会社	5．総ページ数 243
3．書名 路と異界の英語圏文学	

1．著者名 アメリカ学会	4．発行年 2018年
2．出版社 丸善出版	5．総ページ数 960
3．書名 アメリカ文化事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------